

【卒業おめでとうございます】

本日、無事に、卒業証書授与式を挙行することが出来ました。関係する皆様方に感謝申し上げます。

以下、式辞を掲載させていただきます。

新型コロナは五類になりましたが、高校の卒業式は、来賓等、まだ参加者の制約をすることがたくさんありました。感染状況によっては、小中でも制限をかけているところがあるかもしれません。コロナ感染は一年中のことですので、これから毎年油断はできないということになるでしょう。そのような中、本校では、紫波町副町長 藤原博視様、同教育委員会教育委員 森田英仁様 P T A会長、松本真吾様をはじめ、多くのご来賓の皆様方と保護者の方々のご臨席を賜り、本日、こうして、卒業証書授与式をとり行うことが出来ました。本当に喜ばしいことです。関係するすべての皆様方に心から感謝申し上げます。

さて、三十八人の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。いよいよ中学校生活集大成の日を迎えました。みなさんは、この一年、学校のリーダーとして、大いに活躍しました。まだまだ新型コロナの影響で、不安を感じることもたくさんあったことでしょう。しかし、みなさんは、全校のことを第一に考え、どうするのがよいのかを仲間とともに真剣に話し合い、行動に移してきました。その成果が五月の運動会、十月の文化祭の大成功になって表れたのです。下級生も、先生方も、保護者や地域の方々も、多くの感動をあなたたちからもらいました。本当にありがとう。

日々の授業や生徒会活動、そして部活動も充実していました。卒業生のみなさんの姿勢そのものが、紫波第三中学校の発展に大きく貢献していました。個人で感じたことは数限りなくあるはずです。仲間と過ごしたかけがえのない日々、上手くいったこと、いかなかったこと、そのすべてがあなたの財産、宝物です。今一度、この三年間を振り返り今後の糧にしてほしい。強くそう願います。

さて、先月、卒業するみなさんに四つのメッセージを贈りました。私が皆さんに伝えたいことは、あの四つですが、最後にもう一つだけ、話します。それは、相田みつをさんという方が書いた一つの詩です。「生きていてよかった」という本に収められています。紹介します。『まける人のおかげで勝てるんだよなあ』。「社員のおかげで社長になれるんです」、「後輩のおかげで先輩になれるんです」、「生徒のおかげで先生になれるんです」、「どんな試験でも、落ちてくれる人のおかげで受かるんです」、「脇役のおかげで主役が光るんです」、「買い手があるから売れるんです」、「売り手があるから買えるんです」

この詩からみなさんは何を感じるでしょうか。私の頭には二つの言葉が浮かびました。一つは「謙虚」、もう一つは「傲慢」です。人間です。誰でも調子がよいときは傲慢にもなります。でも、果たして、それでいいのか。私は生きていく上で、やはり、「謙虚」という姿勢を、忘れずに、常に頭の片隅に入れて、いつでも引き出せるようにしたい。そう思うのです。『まける人のおかげで勝てるんだよなあ』という相田みつをさんの詩と「謙虚」という姿勢を、中学校を旅立つ皆さんに

最後のメッセージとして贈ります。

保護者の皆様、本日はご卒業おめでとうございませう。中学校は、心身ともに大きく成長する三年間です。今、凛とした面持ちで、立派に成長した、ここにいる子どもの姿をみたとき、きっと、お一人お一人、感慨深いものがあると思ひます。私が直接かかわったのは一年間ですが、この一年でも子どもたちはたくましく成長してきたと感じてひます。頼もしささえ感じます。これからも支えになり、それぞれの生活を充実させてくれることを願っています。これまでの学校に対するご理解とご協力に心から感謝いたします。

ご出席いただいたご来賓の方々におかれましても、今後とも引き続き、卒業生へご支援・ご協力をいただければ幸いです。

最後になりまするが、卒業生三十八人の前途を祝し、みなさんの未来が輝かしいものになることを祈念して式辞といたします。

令和六年三月十三日
紫波町立紫波第三中学校
校長 角谷 隆章

ちなみに、私が卒業生に贈った4つのメッセージとは、以下の通りです。

- ・今、夢を持ってなくてもいい。「やりがいを感じるきっかけは必ずどこかにある」
- ・「家族の思いや声に耳をかたむける」(その上で、自分で考える)
- ・「夢をかなえる道は一つではない。だから今できる努力を続けることは大切だ」
- ・「かっこ悪いストーリー」は誰にでもあり、それはきっと自分の財産になる



【修了証書授与に決意を込める】

1, 2年生のみなさんは、4月からひとつ進級し、それぞれ、2年生, 3年生になります。修了式は来週の月曜日に行われ、そこで『修了証書』が渡されますが、そのときまでに、みなさんには、この1年を振り返り、次年度の決意をもってほしいと思ひます。頭の中でいいです。どんな形でもいいです。例えば、「この1年、自分なりに頑張れた。4月からは、後輩の手本になるように頑張ろう」、「クラスの友達と仲良く楽しく暮らせた1年だった。同じように皆と仲良く、楽しく生活しよう」、「うまく時間のけじめをつけられなかったことがあったけど、3年生になったら、時間をうまく使うぞ！受験生だし！！」のような感じがかまいません。実際の修了証書は、式の後、教室で担任の先生から渡されますが、そのとき、1年を振り返り、次の目標を抱けるか、抱けないか……。たったこれだけでも、春休み以降の過ごし方が違ってきます。新年度のスタートにも影響します。各ご家庭におかれましては、修了式後、ぜひお子さんに、どんな1年だったか、そして、どんな決意をもっているのかを聞いてみてください。励ましやアドバイスをできればなおいいでしょう。これも、やる、やらないでは、その後のお子さんの生活の充実度や、家族との関係に影響してくると思ひます。少し早いですが、進級おめでとうございませう。次年度の活躍、成長を楽しみにしています。

令和5年度の校報「あずまね」は今号が最終号となります。お読みいただき、ありがとうございました。関係するすべての方々に感謝申し上げます。来年度もどうぞよろしくお願ひいたします。時節柄、ご自愛ください。では。(校長)